

# 三次真一郎市長 3期目スタート

任期満了に伴う常陸大宮市長選挙は4月3日に告示され、立候補の届け出は三次真一郎氏のみであったことから、無投票で再選が決まりました。  
任期は平成32年4月22日までです。

## 市長就任あいさつ

このたび、市長に就任いたしました三次真一郎でございます。就任にあたりましてのごあいさつを申し上げます。

平成16年に常陸大宮市が誕生し、最初に施行された選挙に当選させていただき今回は3期目の挑戦となりましたが、お蔭さまで前回に続き無投票当選の榮に浴することができました。市民の皆様の温かいご支援に感謝申し上げます、引き続き向こう4年間の市政を担わせていただきたいと思います。

私はこれまで、限りある行財政資源の有効な活用に努め、市民参画と産業の活力を礎として、「住みたい、住み続けたい、住んでよかった」と実感できる県北西部の中核都市を目指して、全力で市政の運営に当たってまいりました。

今回は、『市政の継続からさらなる前進・飛躍』をスローガンに、「消滅可能性都市から脱却しよう!」と呼びかけて、その実現のために「常陸大宮元気宣言」を行いました。「元気宣言」は、まちづくり、ひとづくり、しごとづくりの3つが核になりますが、3月25日にオープンしました「道の駅常陸大宮～かわプラザ～」の活用と、6次産業の推進をメインに実施していきたいと考えております。

また、常陸大宮市の中心となる常陸大宮駅周辺整備の青写真を描くことを加速化し、しっかりとしたビジョンをこの4年間で作っていきたいと考えております。さらに、本市が誇れるもの（偉人、文化、遺産等）やかかけがえのないもの（豊かな自然等）から学び、一人ひとりが生まれ故郷で輝くことができ、ひいては故郷を輝かせることのできる青少年の育成に力を注ぎ、未来を担う子供が輝くまち「郷育立市宣言」の実現に取り組んでまいります。その一つとして、那珂川・久慈川にある三つの江堰とその周辺を形成しております竹林、これらを一体のものとして、日本農業遺産第1号の登録に挑戦していきたくと考えております。

また、4年後に迫った東京五輪パラリンピックでは、パラオ共和国選手団の本市への事前キャンプ地誘致を茨城県と連携して、強力に推進してまいります。

結びに、市民の皆様が「住みたい、住み続けたい、住んでよかった」と実感できるようなまちづくりのさらなる前進を目指し、粉骨砕身、市政運営に取り組んでまいりますので、温かいご指導、ご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます、市長就任にあたりましてのごあいさつといたします。

## 市長初登庁と就任式の様子



午前10時 市長初登庁



午前10時10分 市長へ徽章佩用



午前10時30分 就任式